

「授業年間計画表」（シラバス）

令和5年度版

教科・科目	教科	科 目	単位数	履修学年
	地理歴史	歴史総合	2 単位	2 年 全 コース
目 標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な社会の有為な形成者に必要な市民としての資質・能力を養う。			
使用教材	教科書：『わたしたちの歴史』（山川出版社）			
評価の観点・評価規準	【知識・技能】		【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
	・近現代の歴史に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野でとらえ、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 ・諸資料から歴史に関する様々な情報を適切且つ効果的に調べまとめる技能を身につける。		・近現代の歴史に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりに着目して、多面的・多角的に考察する。 ・歴史に見られる課題を把握し、解決を視野に入れて構想する力や、それを効果的に説明し、議論する力を養う。	・近現代の歴史に関わる諸事象について、より良い社会の実現を視野に課題を主体的に追求・解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される市民としての自覚、多様な文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。
評価方法	・授業に意欲的に取り組み、発言・発表等を行う。 ・しっかり事前の準備をして定期テストを受け、最後まで諦めないで取り組む。 ・プリント、ノート、課題等に取り組み、確実に提出する。			
学期	学習内容		学習のねらい	学習活動
1	歴史の舞台 第1部 近代化と私たち 1 18世紀の世界とアジア 2 産業革命 3 アヘン戦争と日本 4 日本の開国 5 日本開国期の国際情勢 6 開国後の日本社会 7 市民革命と国民統合 8 明治維新 9 富国強兵と文明開化 10 明治初期の外交 11 大日本帝国憲法の制定 12 日本の産業革命と日清戦争 13 帝国主義 14 日露戦争と韓国併合		・歴史の舞台となる諸地域の歩みを概観することにより、地理的・歴史的な見方・考え方を養う。 ・18世紀のアジアの経済文化の特徴と、欧米諸国との関係を、多角的・多面的に考察し、理解する。 ・産業革命による社会の変化、中国・日本と欧米諸国の関係の変容について、国際情勢と関連させて整理し理解する。 ・国民統合の背景や影響に着目して、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容を多角的・多面的に考察することを通して、立憲制と国民国家の形成を理解する。 ・帝国主義の背景やアジア・アフリカに与えた影響に着目して、帝国主義の特徴、列強の関係の変容を多角的・多面的に考察することを通して、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。	・世界諸地域の文明の特徴を、教科書の記述や配布プリントから整理する。 ・18世紀のアジア諸文明の特徴とヨーロッパとの関係を、考察し、表現する。 ・産業革命と資本主義の確立について、諸資料から読み取り、考察し、表現する。 ・19世紀に東アジアが、西欧諸国とどのように関わり、変化したかについて、考察し、表現する。 ・市民革命と国民統合の流れについて、考察し、表現する。 ・明治政府の改革や、外交関係について、考察し、表現する。 ・帝国主義の世界分割と世界秩序の変容について、考察し、表現する。 ・日清・日露戦争の経過と影響について、考察し、表現する。 ・韓国併合の経過と影響について、考察し、表現する。
2	第2部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1 大衆運動の芽ばえ 2 第一次世界大戦 3 第一次世界大戦と日本 4 ロシア革命とその影響 5 社会運動の広がり 6 国際協調 7 アジアの民族運動 8 大量生産・大量消費社会 9 世界恐慌 10 独裁勢力の台頭 11 日本のアジア進出 12 第二次世界大戦 13 第二次世界大戦と日本 14 第二次世界大戦の終結 15 戦後国際秩序 16 冷戦の始まり 17 日本の戦後改革と日本国憲法 18 日本の独立		・第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア/太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴を多角的・多面的に考察することを通して、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 ・第一次世界大戦前後の社会の変容と社会運動との関連を多角的/多面的に考察することを通して、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。 ・世界恐慌の背景と影響、特に独裁勢力の台頭と日本のアジア進出に着目して、国際協調体制の動揺を理解する。 ・第二次世界大戦の性格と惨禍、戦時下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係を多角的・多面的に考察することを通して、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。	・大衆化による人々の生活の変化を考察し、表現する。 ・第一次世界大戦と戦後の国際秩序、日本との関わりについて、考察し、表現する。 ・ロシア革命とその影響について、考察し、表現する。 ・国際協調とアジアの民族運動の展開について、考察し、表現する。 ・民主主義の広がりと大衆社会の成立について、考察し、表現する。 ・世界恐慌と国際秩序の動揺について、考察し、表現する。 ・日中戦争・第二次世界大戦・アジア太平洋戦争の開始と経過、戦時下の人々の生活について、まとめ、表現する。 ・戦後の国際秩序と日本の戦後改革の経過について、まとめ、表現する。 ・冷戦の始まりについて、まとめ、表現する。
3	第3部 グローバル化と私たち 1 第三世界の登場 2 冷戦の固定化と「雪どけ」 3 冷戦の展開 4 55年体制と安保闘争 5 高度経済成長の光と影 6 ベトナム戦争とアメリカ 7 経済構造の変化 8 日本の経済大国化 9 アジアの経済成長 10 社会主義の停滞と新自由主義 11 冷戦の終結 12 冷戦後の地域紛争 13 地域統合 14 現代世界の諸課題 15 日本の諸課題		・地域紛争と冷戦の関係、第三世界の特徴、欧米やソ連の政策転換を多角的・多面的に考察することを通して、国際政治の変容を理解する。 ・冷戦下の世界経済や地域連携の特徴を、多角的・多面的に考察することを通して、世界経済の拡大と経済成長期の日本社会について理解する。 ・市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割を多角的・多面的に考察することを通して、市場経済の変容と課題を理解する。 ・冷戦後の国際政治の特徴と日本の役割を多角的・多面的に考察することを通して、冷戦後の国際政治の変容と課題を理解する。 ・歴史的経緯をふまえて、持続可能な社会に向けて、世界と日本の課題を探究する。	・冷戦の展開と第三世界の登場の原因と展開について、まとめ、表現する。 ・戦後日本の政治・経済の過程をまとめ、考察し、表現する。 ・アジア・アフリカの独立について整理し、表現する。 ・アメリカ合衆国発展の転機となったベトナム戦争の歴史的意義について、考察し、表現する。 ・社会主義の停滞と新自由主義の考え方と展開について整理し、表現する。 ・冷戦終結と、その後の地域紛争について整理し、表現する。 ・地域統合の経過について、まとめ、表現する。 ・グローバル化の進展と世界がかかえる諸問題について、考察し、表現する。 ・日本の諸課題と、世界の中での役割について整理し、考察し、表現する。
学習上の留意点		・世界の歴史の流れを、日本の歴史と関連づけて理解する。 ・学習を通して、文化の多様性と現代世界の特徴を、多角的・多面的に考察する。 ・教科書やプリント等の諸資料を、読み取る、整理する、考察する、まとめる方法を身につける。 ・学習の過程で生まれた疑問や課題を、質問する・調べるなど主体的に解決しようとする姿勢を身につける。 ・自分でまとめたことを表現する方法を身につける。		

「授業年間計画表」（シラバス）

令和5年度版

教科・科目	教科	科 目	単位数	履修学年
	地理歴史	地理総合	2 単位	2 年 全 コース
目 標	・持続可能な社会づくりをめざし、環境条件と人間の営みとのかかわりに着目して現代の地理的な諸課題を考察する資質を養う。 ・グローバルな視点とローカルな視点から、諸課題に対応する資質を養う。 ・地図やG I Sなどを用いることで、汎用的で実践的な地理的技能を習得する。			
使用教材	教科書：『高校生の地理総合』（帝国書院）、 『標準高等地図』（帝国書院）			
評価の 観点・ 評価規準	【知識・技能】		【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
	地理の基本的事項を習得し、地図や地理情報システム等を実践的に活用する知識・技術を身につけている。		地理的な知識やデータを活用して、国際的・地域的な諸課題を整理し、多角的・多面的に考察し、判断し、適切な方法で表現することができる。	地理的な諸課題に対する関心と問題意識を高め、地域社会・国際社会に生きる市民として主体的に役割を果たそうとする意欲を持ち、積極的に学ぼうとする態度を身につけている。
評価方法	○授業に意欲的に取り組み、発言・発表等を行う。 ○しっかり事前の準備をして定期テストを受け、最後まで諦めないで取り組む。 ○プリント、ノート、課題等に取り組み、確実に提出する。			
学期	学習内容		学習のねらい	学習活動
1	第 1 部 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 第1章 地図や地理情報システムと現代世界 第1節 地球儀と地図 第2節 地図と地理情報システム 第2章 結びつきを深める現代世界 第1節 現代世界の国家と領域 第2節 地図から見る国内や国家間の結びつき 第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 序説 生活文化の多様性 第1節 世界の地形と人々の生活 第2節 世界の気候と人々の生活 第3節 世界の産業と人々の生活 第4節 世界の宗教・民族・言語と人々の生活 第5節 多様な生活文化と地理的環境		・地球儀や様々な図法から現代世界の姿を読み取ることを通じて、地図やG I Sの役割や有用性について理解し、それを利用する技能を身につける。 ・各種地図の特徴やG I Sの利活用法について、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・世界を構成する国家の領域や、世界の国々の結びつき、交通・通信・人の移動の特徴を理解する。 ・世界の結びつきについて、地図やデータを通して多面的・多角的に考察し、表現する。 ・世界の多様な生活文化の形成と、その背景となる自然的・社会的環境について理解するための、地理的見方・考え方を身につける。 ・世界の生活文化の多様性について、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・地図やG I S、世界の生活文化の多様性について、テーマを設定し、主体的に追求し、課題を見いだす。	・地図帳や地球儀を用いて、日本と同じ緯度にある国々を探したり、赤道が通っている国々を調べる。 ・地球儀や平面図を活用し、それぞれのメリット・デメリットを考える。 ・日本や各国の航空路の変化を調べ、世界の国々の結びつきが強まった要因を考える。 ・国際電話や携帯電話に関する資料を比較して、世界の結びつき・通信という角度から考える。 ・グラフから統計数値の変化を読み取り、統計資料からグラフを作成する。
2	事例 1 経済発展による生活文化の変化 事例 2 他地域との結びつきが生活文化に与えてきた影響 事例 3 ヒンドゥー教と生活文化のかかわり 事例 4 乾燥地域で育まれてきた生活文化の変化 事例 5 植民地支配の歴史と生活文化の変化 事例 6 伝統の継承と生活文化のかかわり 事例 7 寒冷な気候と生活文化に見られる工夫 事例 8 産業技術の発展と生活文化の関わり 事例 9 開発の歴史と生活文化の関わり 事例 10 結びつきの変化がもたらす生活文化への影響 第 2 章 地球的課題と国際協力 序説 複雑に絡み合う地球的課題 第 1 節 人口問題 第 2 節 食料問題 第 3 節 都市・住居問題 第 4 節 感染症・衛生問題 第 5 章 資源・エネルギー問題 第 6 節 地球環境問題		・東アジアの急速な経済発展と、人々の生活や文化の変化を理解する。 ・東南アジアについて、他地域との結びつきの様子と生活文化の特徴について理解する。 ・ヒンドゥー教徒インドの生活文化の関わりについて理解する。 ・乾燥気候の地域の人々の生活文化の特徴を理解する。 ・サハラ以南アフリカの植民地支配の歴史と、生活文化に与えた影響について理解する。 ・ヨーロッパの伝統や宗教と、人々の生活文化との関わりについて理解する。 ・寒冷地での生活文化の特色を理解する。 ・アメリカ合衆国における産業技術の発展と生活文化の関わりについて理解する。 ・ラテンアメリカにおける開発の歴史と生活文化の特徴を理解する。 ・オセアニアにおける、他地域とのつながりの変化と生活文化の特徴を理解する。 ・事例で学んだ諸地域の特徴をもとに、国や地域を選択し、海外旅行計画を作成し、表現する。 ・地球的課題が生じている場所や要因、課題相互の関連について、地理的視点に立って理解する。 ・地球的課題解決のための取り組みを、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・持続可能な開発を実現するための取り組みや、国際協力のあり方について、主体的に追求し、課題を見いだす。	・図版やデータから各地域の気候を読み取り、プリントにまとめる。 ・図版やデータから各地域の生活文化の特徴とその背景を考える。 ・異文化適応度チェックをして、自分の異文化に対する考え方を知る。 ・世界の公用語と言語の分布を、地図・統計から読み取る。 ・地図を見て、宗教分布の特色を知る。 ・文字資料から、各地域の生活文化に歴史が与える影響を考える。 ・ガイドブックなどを利用して、旅行計画を作成し、地域の文化や慣習を調べ、まとめる。 ・地球的規模に広がる諸課題について、情報を活用し、解決に向けた取り組みをまとめ、話し合う。
3	第 3 部 持続可能な地域作りと私たち 第 1 章 自然環境と防災 第 1 節 日本の自然環境 第 2 節 地震・津波や火山活動による災害と防災 第 3 節 気象災害と防災 第 4 節 自然災害への備え 第 2 章 生活圏の調査と地域の展望		・様々な自然災害の特徴と、防災・減災の取り組みについて理解する。 ・防災・減災の取り組みについて、多面的・多角的に考察し、表現するとともに、自分の役割について考えを深める。 ・地域調査の手法や発表の仕方について理解し、その技能を身につける。 ・災害と防災について、自分たちの地域の特色に即して、多角的・多面的に考察、表現することを通して、地域の課題を見いだす。	・身近な自然災害に関する情報を収集する。 ・防災の視点でフィールドワークに取り組む。 ・諸情報をもとにして、地域の防災課題についてディスカッションする。 ・防災・減災に向けた個々の役割についてレポートにまとめる。
学習上の留意点		・作業を積み重ねる中で、地理的知識・技能を着実に身につける。 ・世界的な課題について、新聞等をもとに自ら考え、表現する。 ・自然災害を自分の問題としてとらえ、防災・減災に向けた実践力を身につける。 ・データや事例を多面的・多角的な視点で分析・考察する。 ・主体的に学ぶ。		

「授業年間計画表」（シラバス）

令和5年度版

教科・科目		教科	科 目		単位数	履修学年		
		地理歴史	日本史 A		2 単位	3 年 全 コース		
【必修】								
目 標		我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連づけ、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。						
使用教材		教科書：山川出版 現代の日本史 改訂版						
評価の観点・評価基準	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		資料活用 of 技能		知識・理解	
	歴史的・地理的事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。		歴史的な事象から課題を見だし、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、表現している。		我が国に関する近現代の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。		我が国の近現代の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	
評価方法		授業に取り組む姿勢、定期考査の結果、課題やレポートなどの提出物の状況を総合的に判断し評価します。授業に取り組む姿勢は、授業態度、ノート提出、発表状況などを評価の対象とします。						
学期	学習内容			学習のねらい		学習活動		
1	第1章 開国と維新 1. 明治維新の背景 2. 開国とその影響 3. 政治秩序の崩壊 4. 明治維新と連続的改革 5. 対外関係の変革と内乱の終結 第2章 近代国家の形成と発展 1. 立憲政治をめざして 2. 憲法の制定と議会の開設 3. 東アジアの国際環境と条約改正問題 4. 清国との戦い 5. 藩閥・政党の対立と協力 6. ロシアとの戦い 7. 日露戦後の国際関係と日本 第3章 産業化の推進と国民生活の変化 1. 産業革命の進展 2. 資本主義の確立とその特色 3. 社会問題の発生 4. 国民文化の形成 5. 国民生活の変化			・近代国家のしくみや、経済・文化を踏まえて近世社会の特徴を理解する。 ・東アジア世界の秩序と欧米諸国の東アジア進出による情勢変化を理解する。 ・近世国家のしくみや、経済・文化を踏まえて、近世社会の特徴を理解する。 ・大日本帝国憲法の成立と帝国議会の在り方を理解する。 ・清国における欧米諸国の勢力拡大の経緯を理解する。 ・開戦への過程を英露対立など世界情勢と関連づけて理解する。 ・日露戦争における日本の勝利がアジア諸国の民族独立や近代化運動を刺激したことを理解する。 ・明治初期から日清戦争、日露戦争を経て資本主義国家が確立していく過程を理解する。 ・伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性を持って成立した近代文化の特色について理解する。		・開国から明治維新にいたるまでの過程を考察する。 ・明治初期の国家的統一過程を考察する。 ・明治初期の対外政策について考察する。 ・自由民権運動の始まりから近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。 ・不平等条約の改正交渉と朝鮮への勢力拡大をめざした過程について考察する。 ・日清戦争の経緯と戦後の対外関係の変化、国内政治の展開を考察する。 ・日露戦争の経緯、戦後の日本の国際的地位の変化を諸外国の動向と関連づけて考察する。 ・近代産業の発展に伴う社会問題の発生と政府の対応について考察する。		
2	第4章 第一次世界大戦と大正デモクラシー 1. 第一次世界大戦と日本の外交 2. デモクラシーの高まりと政党 3. 国際協調と軍縮の進展 4. 政党政治の時代 5. 大戦中から戦後の経済と社会 6. 都市化と大衆文化 第5章 第二次世界大戦と日本 1. 昭和恐慌 2. 協調外交のゆきづまり 3. 満州事変から国際的孤立へ 4. 軍部の政治的台頭 5. 中国との戦い 6. 第二次世界大戦と世界秩序 7. 太平洋戦争と日本の敗北 第6章 占領下の日本 1. 占領政策の展開 2. 戦後民主主義の定着 3. 政治・経済の再建 4. 独立の回復			・大正政変以降デモクラシー思想の浸透により政党勢力が国民統合の中心的役割を果たしていく過程を理解する。 ・労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、市民文化の特色について理解する。 ・関東大震災から昭和恐慌にいたる国内経済の動揺について理解する。 ・第二次世界大戦がもたらした惨禍に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。 ・国内の総力戦体制の構築に向け、新体制運動・大政翼賛会などが組織されたことを理解する。 ・戦後政治の動きを踏まえて、集大成となる日本国憲法制定の意義を理解する。 ・民主主義の定着に向け、教育制度の改革が実施されると同時に敗戦により日本人の価値観に大きな変化があった点を理解する。		・第一次世界大戦が日本の社会経済に及ぼした影響について、欧米・アジアとの関連に着目して考察する。 ・世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、協調外交が挫折し、日本の国際的孤立の過程について考察する。 ・第二次世界大戦について、国家間の提携やその性格の相違を考察する。 ・戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び民主化政策と、それに伴う諸改革について、その過程と内容を考察する。		
3	第7章 日本の自立と経済成長 1. 55年体制の成立 2. 安保体制下の日本 3. 高度経済成長の光と影 第8章 現代の世界と日本 1. 激動する世界 2. 国内政治の再編成 3. アジア・太平洋地域と日本 4. 21世紀の課題			・日本の国際連合加盟の経緯を理解する。 ・消費革命による社会の変貌と経済成長がもたらしたひずみである社会問題について理解する。 ・1980年代以降の国内状況について、政治・外交・財政・経済状況・地域協力の在り方について多面的・多角的に理解する。		・独立後の日本国内の政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制が成立した意義を考察する。 ・冷戦終結の後、世界各地で民族紛争や宗教対立に起因する武力紛争が頻発した状況と日本の貢献について考察する。		
学習上の留意点		レポートの提出や発表を行う場合があるので、自分の視点や考察した考えをまとめて表現できるように念頭に置いて学習してください。						